

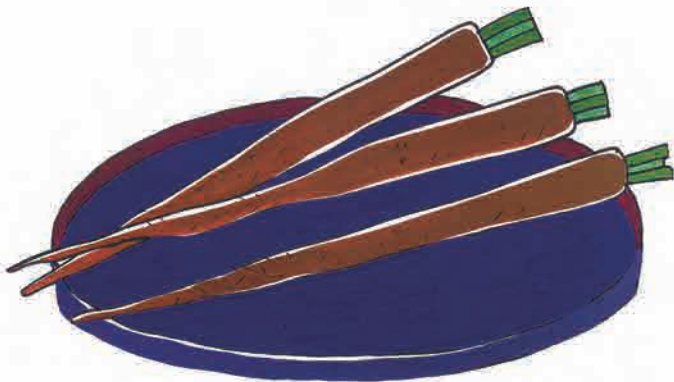
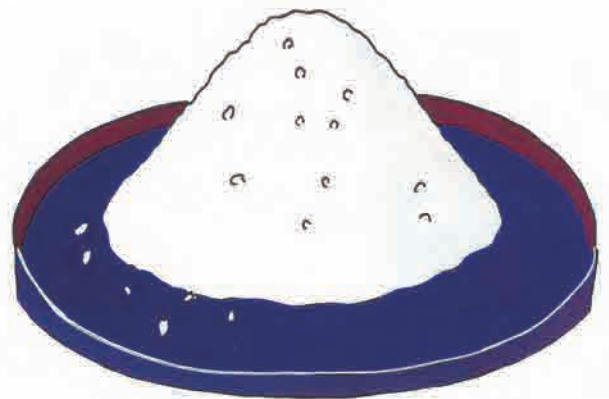
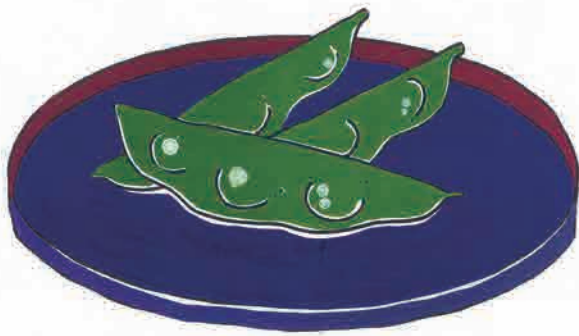
目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (草木編)
- 3 童謡 牧場の朝
- 4 早口ことば 盆豆盆米盆ゴボウ
- 5 今月の詩 晩夏 木下夕爾
- 6 たし算 5の段
- 7 ことわざ 孝行のしたい時分に親はなし
虎穴に入らずんば虎子を得ず
五十歩百歩 後悔先に立たず 弘法にも筆の誤り
- 8 かけ算 6の段
- 9 俳句 与謝蕪村 小林一茶 篠原鳳作
- 10 かぞえうた 1頭 1面 1張 (パンダ、鏡、テント)
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた おちたおちた
- 13 今月のうた 鎌倉仏教
- 14 四字熟語 空前絶後 厚顔無恥 自暴自棄
- 15 イメージトレーニング クロス君 (第5話 日本の誕生)
(イメージしてみましょう)
- 16 おはなし 人魚姫
- 17 漢詩 涼州の詞
- 18 百人一首 藤原義孝 殷富門院大輔 紫式部 権中納言定頼
- 19 復習コーナー
- 20 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

早口ことば

ぼん まめ ぼん こめ ぼん

盆豆盆米盆ゴボウ



ばん か
晩 夏

きのしたゆうじ
木下夕爾

ていしゃば
停車場のプラットホームに
かぼちゃ つる は
南瓜の蔓が匍いのぼる

とぎ
閉された花の扉のすきまから
てんとうむし そと み
てんとう虫が外を見ている

けいべんしゃ き
軽便車が来た
だれ の
誰も乗らない
だれ お
誰も下りない

さく
柵のそばの黍の葉っぱに
わか きつぷ はさみ い
若い切符きりがちょっと鋏を入れる



ことわざ

こうこう じぶん おや
孝行のしたい時分に親はなし

親が元氣なうちは孝行を忘れがちで、死んだ後になって後悔するものである。



こけつ い こじ え
虎穴に入らずんば虎子を得ず

危険をおかさなければ大きな成功はない。



ごじつ ほひゃっほ
五十歩百歩

似たりよったりで、あまり違いがないこと。



こうかい さき た
後悔先に立たず

すんでしまったことを後でいくら悔やんでも取り返しがつかない。



こうほう ふで あやま
弘法にも筆の誤り

どんな名人でも時には失敗もある。



俳句

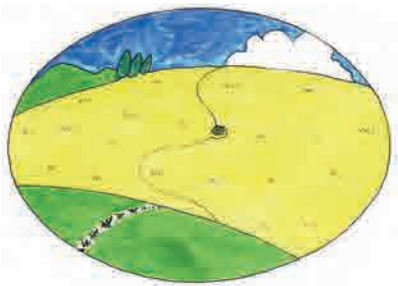
なつかわ 夏河を 越すうれしさよ 手にぞうり

よきぶそん
与謝蕪村



ありれつ 蟻の列 くもみね 雲の峰より つづきけん

こばやしいっさ
小林一茶



しんしんと はいあお 肺碧きまで うみたび 海の旅

しのはらほうさく
篠原鳳作



なぞなぞ

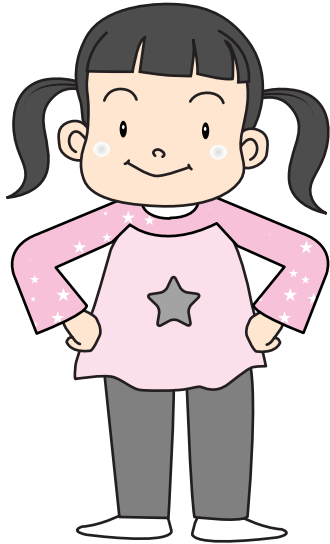
- 1 ^{なつ}夏の^{よる}夜に^ひ火を^{つか}使って^さ咲かせる^{はな}花はななに？
- 2 たった1^{ほん}本でも10^のという^{飲み}飲みものはななに？
- 3 ^{あさはや}朝早く^{さく}さく、^{ラッパ}ラッパの^{かたち}かたちをした^{はな}花はななに？
- 4 ^た立って^{すすむ}すすむより、^{よこ}横になって^{すすむ}すすむ^{ほう}ほうが^{はやい}はやいものななに？



《おちたおちた》

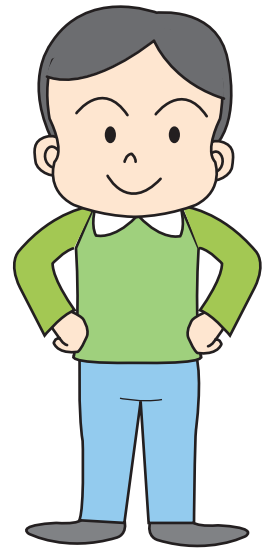
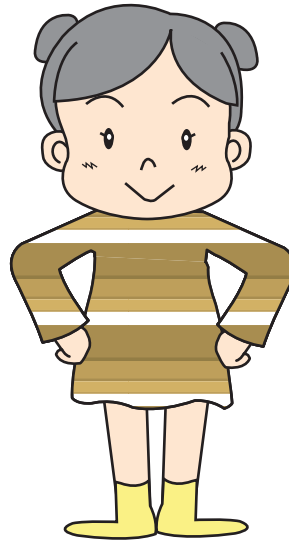
① (リーダー)

おちたおちた



② (みんな)

なにがおちた

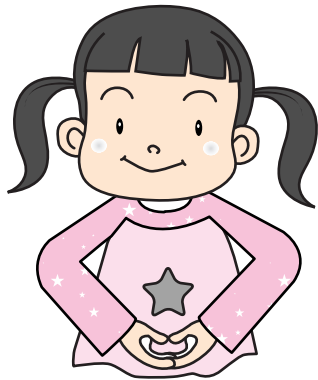


③ (リーダー：おちたものをいう)

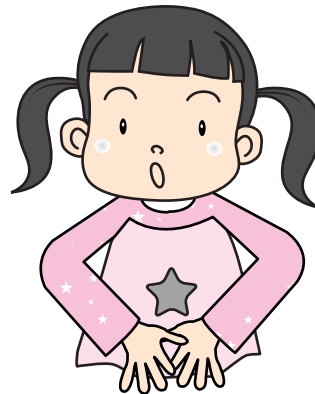
〈りんご〉

〈かみなり〉

〈げんこつ〉



うけとめるポーズ



おへそをかくす



あたまをかくす

☆ みんなはリーダーにあわせてポーズをする

今月のうた

かまくらぶつきょう 《鎌倉仏教》

かまくらぶつきょう ほう さんにん
鎌倉仏教 坊さん6人

じょうどしゅう ほうねん
浄土宗は 法然さん

じょうどしんしゅう しんらん
浄土真宗 親鸞さん

じしゅう いっぺん ねんぶつとな ごくらくじょうど
時宗は 一遍 念仏唱えて 極楽浄土

にちれんしゅう にちれん
日蓮宗は 日蓮さん

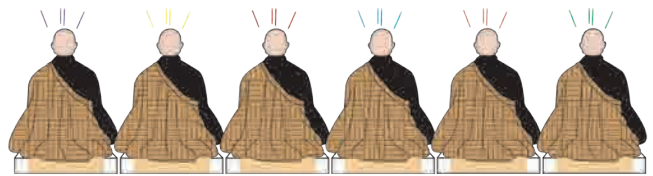
だいもくとな なむみょうほうれんげきょう
題目唱える 南無妙法蓮華経

じっとすわって さと
じっと座って 悟りをひらく

りんざいしゅう えいざい
臨済宗は 栄西さん

そうとうしゅう どうげん
曹洞宗は 道元さん

ぶし あいだ ひろ
武士の間に 広まった



くうぜんぜつご
空前絶後

まへ
今までもこれからもないであろう、と
おも
思われるくらい珍しいこと。



こうがんむち
厚顔無恥

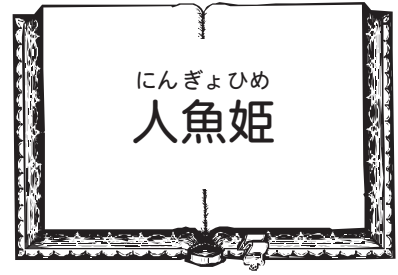
はじし
恥知らずであつかましいこと。



じほうじき
自暴自棄

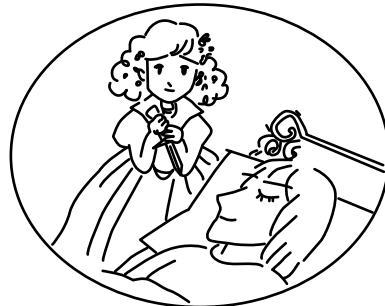
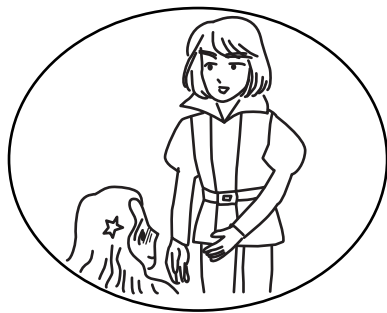
な
投げやりな態度をとること。やけになること。





「人魚姫」は、人間の王子様を好きになってしまった人魚のお姫様の悲しいお話です。
お話を聞いた後で、質問にこたえてみましょう。

- 1 海のお城には、何人の人魚姫がいましたか。
- 2 何才になったら、海の上へ行けるのですか。
- 3 人魚姫は、誰を助きましたか。
- 4 人魚姫と海の魔女は、何と何を交換しましたか。
- 5 人魚姫が王子と結婚できなかつたら、どうなると魔女は言いましたか。
- 6 人魚姫のお姉さんたちは、どうやってナイフを手に入れましたか。
- 7 王子の胸にナイフを刺せば、人魚姫は助かります。
あなたが人魚姫だったら、どうすると思いますか。



涼州の詞りょうしゅうのし

王おう

翰かん

葡萄酒の美酒ぶどうのびしゅ
飲まんと欲のほつ

夜光の杯やこうはい

琵琶馬上に催すびわわばじょうもよお
酔いて沙場に臥すよいてさじょうふす

君きみ笑うこと莫なかれ

古来征戦こらいせいせん
幾人か回るいくにんかえ

百人一首

君がため

惜しからざりし

命さへ

長くもがなと 思ひけるかな

(藤原義孝)

見

せばやな

雄島の海人の袖だにも

濡れにぞ濡れし 色は変はらず

(殷富門院大輔)

めぐり逢ひて

見しやそれとも

雲隠れにし 夜半の月かな

(紫式部)

朝

ぼらけ

宇治の川霧 たえだえに

瀬々の網代木

(権中納言定頼)



殷富門院大輔